

日本鐵鋼協會第二十二回 聯合講演大會狀況  
 滿洲冶金學會第二十四回

## 目次

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| I 旅行日誌    | V 奉天に於ける招待晩餐會の狀況     |
| II 聯合講演會  | VI 滿洲重工業開發會社の招待晩餐會狀況 |
| III 懇親晩餐會 | VII 出席會員の所感          |
| IV 通俗講演會  |                      |

## I. 旅行日誌

9月19日(曇時々小雨)内地會員約70名を載せた日滿連絡船鴨綠丸は朝靄立ち籠める大連港に早朝入港、午前8時過ぎ一行は元氣に大陸に第一歩を印す。埠頭船客待合所外壁には「歡迎日本鐵鋼協會」の大旗が掲げられ、大會副委員長たる滿洲冶金學會々々、旅順工大教授長谷川熊彦氏、委員昭和製鋼常務理事久保田省三氏はじめ多數役員の出迎を受ける。直ちにヤマトホテルに向ひ小憩、この頃より案ぜられた空模様は小雨となつたが、正午過ぎ中食を終へ旅順戦跡見學に出發の頃には幸にも霽れ、一同勇躍遊覽バスに乘車、坦々たる旅順大道路を疾走すること約1時間にして旅順に到着する。案内者の説明にて白玉山、東雞冠山、北堡壘を經之より二班に分れ第一班は水師營會見所、二〇三高地を、第二班は旅順博物館、旅順工大を夫々詳細に見學、30餘年前の現形の儘残された彈痕慘憺たる爆破の跡、當時の皇軍奮戰狀況を目の邊りに見るが如く一同往時を追懷して感慨無量、先輩の血を以て獲た此の聖地旅順を時恰も日支事變のさ中に訪れ、益々銃後國民としての覺悟を固くし、かくて感激の旅順見學を終了、午後6時過ぎ大連に歸着、各宿舍に大陸第一夜の夢を結ぶ。

9月20日(晴)午前9時、一同ヤマトホテル前に集合、バスを連ねて滿洲資源館、滿鐵中央試験所を見學、星ヶ浦ヤマトホテルにて中食をとり、午後は滿鐵々道工場、滿鐵々道研究所等滿洲開發の源動力とも稱すべき之等の工場を有意義に視察した。

9月21日(晴)午前10時大連發急行ハトにて大連側委員の見送りを受け一路鞍山へ向ふ。午後2時35分鞍山着、先着の齋藤會長、鞍山側委員等の出迎へを受け直ちに電車にて約20分昭和製鋼所大孤山鐵鑛山に至り同所を見學す。本鐵鑛山は所謂貧鑛であつて鐵分37%前後であるが、全山これ鐵鑛であり、現に昭和製鋼所の主要鑛石である。其の採鑛法は前同社取締役久留島秀三郎氏によつて發明された液體酸素爆藥の使用による露天掘であつて、雄壯なる

その爆破作業に一同驚嘆す。午後5時半鞍山歸着、鞍山市内及湯崗子温泉に分宿する。

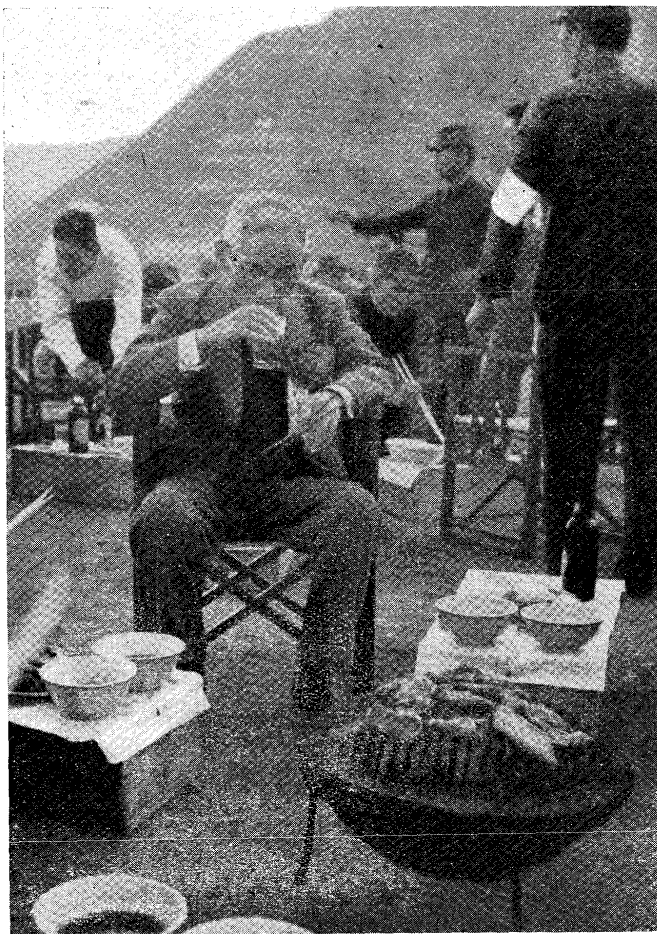
9月22日(晴)各協會に昭和製鋼所よりバスの出迎へを受け、午前9時半同所實科教習所講堂に集合、この日邊りより滿洲側會員も續々参加し全員殆ど揃ふ。

小日山理事長不在の爲久保田常務理事より挨拶あり、次いで梅根理事より同所の事業概要並に今後の擴張計畫を大圖面に依り詳細なる説明を受ける。其數字は遺憾乍ら發表を禁ぜられてゐるが、日滿鐵鋼國策に於ける同所の持つ偉大なる役割と、止まる處を知らざる同所の素晴らしき躍進、其の尨大なる機構と計畫に一同敬意を拂ふ。説明後4班に分れて工場見學に移り先づ同所理事梅根常三郎博士の發明に係る鞍山式還元焙燒爐を有する選鑛工場、昨年より本年にかけて700t爐4基を完成し熔鑛爐8基を併立せしむる鉄鐵工

場の偉觀、巨人の手を思はせて縦横に活躍するペンジラム・クレーンに東洋一を誇る製鋼工場等を一巡、雄大なる鉄鋼一貫作業の現況を見學する。之れで同所見學を了へ晝食の接待を受け午後はいづれも同所の關係會社たる、神戸製鋼所の分身滿洲鑛鋼所、日本鋼管の分身日滿鋼管、及び鞍山鋼材の三社を見學、重工業都市鞍山の全貌を遺憾なく視察、午後5時半から昭和製鋼所食堂に於ける支那料理の招宴に臨む。

9月23日(曇時々小雨)午前9時2分鞍山發、古都遼陽にて昭和製鋼社線に乗換へ同所弓長岑鐵鑛山に至る。同山は鐵分62%の富鑛を産し主として鑛石法による昭和製鋼所の平爐作業に使用せられ、又他に貧鑛をも多量埋藏してゐる。尙この日晝食として接待を受けたジンギスカン料理は大いに一同を喜ばせ、齋藤會長も昭和9年弓長岑開掘當初開催された前回の滿洲大會當時の懷舊談の後「昨日の晝は和食、夜は支那料理、更に今日は蒙古料理の御馳走になり

云々」と一同に代て謝辭を述べられた程であつた。斯くて昭和製鋼關係の見學日程を全部終了し遼陽出發午後5時21分、愈々大會開催地たる奉天に入る。



9月24日(晴)晴れの聯合講演大會當日を迎へて、定刻前より講演者をはじめ全員續々と會場たる滿洲醫科大學講堂に參集、午前9時より愈々大會は開催された。劈頭實行副委員長長谷川熊彦氏登壇別項の如く開會の辭を述べ、同氏司會のもとに第一講演「自然産鐵鑛石及加工鐵鑛石の一酸化炭素に依る還元度比較試験」が本溪湖煤鐵公司鉄鐵部長井門文三工學士、同技術員香月秀男工學士によつて行はれ、之より會場を二つに分ち、大學教室に於て別紙順序に依り午後五時半まで熱心な講演が續けられ、全員得る處多大なるものあり、齋藤會長の閉會の辭にこの有意義なる大會を終了した。

斯くて一同舊商埠地馬路灣・鹿鳴春の懇親晚餐會場に至る。齋藤會長の挨拶に會は初り、一同滿洲一の稱ある支那料理に舌鼓を打ちつつ歡談、宴たけなはにして會長の指名により滿鐵々道總局工作局長渡邊猪之助氏、九大名譽教授高壯吉氏、住友金屬工業取締役荒木宏氏、昭和製鋼所理事長小日山直登氏等のテーブル・スピーチあり和氣霽々の盛況裡に午後9時過ぎ宴を閉じた。

9月25日(晴)此の日は二班に分れて奉天見學である。第一班は午前8時半ヤマトホテル前に集合5臺のバスに分乗して工場廻りで、先づ滿洲工廠を見學、次いで方面を轉じて鐵西工場地區に赴き富士電機より滿洲ビールを歴訪、同所で出來立ての新鮮なるビールの満を引いて晝食の接待あり、午後は更に滿蒙毛織、滿鐵々道工場、滿洲車輛の各工場を視察、各所に於て詳細なる説明と懇切なる接待案内を受け、躍進目覺ましき奉天鐵西工場地區の全貌を深く認識するを得た。一方乙班は午前10時ヤマトホテル前に集合、遊覽バスに乗車案内ガールの説明を受けつゝ市内名所見學を行ひ、國立博物館、同善堂、北陵、北大營、城内吉順糸房等 歴訪、歴史の都としての奉天、日本の新大陸經營の發足地たる新しき奉天の兩方面より觀光した。かくて兩班とも午後6時より開催された通俗講演會場たる滿洲醫大記念講堂に落合た。

通俗講演會 聴衆約200餘人の盛況で大會副委員長たる滿洲工業會理事長山本盛正氏の開會の辭に始まり、先づ昭和製鋼所理事長小日山直登氏滿場の拍手裡に登壇「滿洲に於ける製鐵事業の特徴」なる演題のもとに、1時間20分に互り凡ゆる角度より其特徴を検討、詳述して聴衆 多大の感銘を與へれば折柄來滿中の獨逸クルップ會社のヨハンゼン博士は「獨逸に於けるレン式製鐵法の現況」に就き幻燈を應用して説明、(クルップ會社東京代理店鈴木泰次郎氏の通譯あり)聴衆を裨益する所大なるものがあつた。

次いで一同はヤマトホテル大廣間に於ける當日の視察工場各社主催による招待晚餐會に臨んだ。尙齋藤會長は午後6時25分より25

分間にわたり「滿洲に於ける製鐵事業と日本鐵鋼協會」なるラヂオ講演を奉天中央放送局より全滿に向け放送した。

9月26日(晴)午前9時奉天發、一行100名撫順に向ふ。10時40分着商工公會會議室に於て大野撫順炭礦庶務主任より同礦の現況に就き詳細なる説明を受ける。終て炭礦クラブに赴き小憩の後晝食の饗應あり、席上炭礦長久保孚氏より更に懇切なる事業に就ての解説が行はれ之に對し齋藤會長より鄭重なる謝辭が述べられた。午後は有名なる露夫掘を見學聞きしに優る雄大さに一同驚嘆、次で撫順が世界に誇る製油工場を視察先人が辛苦の跡を偲んだ。かくて鐵鋼事業とは不可分の石炭問題喧しき折柄現地の實際を見、認識を新にするを得て收穫大なるものがあつた。午後4時45分奉天歸着、大部分の會員は奉天最後の一夜を送り、一部分は豫定を變更して哈爾濱へ向ふ。

9月27日(晴)午前7時35分奉天發。遽に大陸的風景を帯び

て來る沿線を車窓より眺めつゝ一路北上午後3時新京着、ヤマトホテルに小憩後、大陸科學院を訪れ、院長鈴木梅太郎博士より同院の使命、現況等に就き説明を受け、終て標本室を見學する。未だ準備時代を脱せず、其事業も緒についた許りとは云へ、院長以下大陸資源の開發調査に全智能を傾倒せられ、涙ぐましい努力を續けられる悲壯な決意が瞭に看



取せられ、一同將來の發展を衷心より祈念する。同院に別れを告げた一同は直ちに滿洲重工業開發株式會社主催の招待晚餐會場たる鹿鳴春に向ふ。

會は午後6時半、多忙を割いて出席された滿業總裁鮎川義介氏の挨拶に始まり齋藤會長之に對し鄭重なる謝辭を述べた。宴酣なる頃酒間を幹旋する滿洲美妓の歌謠が行はれたが、一同其意味を解することが出來ず居るのを見られた鮎川總裁は、態々足を秘書の許まで運んで、之が解説を命ぜられたので同社庶務課秘書係白石吉男氏が明快懇切なる説明(支那芝居の話参照)をなし、一同拍手大喝采、アンコールを求め賑かさ、かくて充分觀を盡して9時閉宴した。

9月28日(晴)この日は全員自由行動。希望者のみ午前9時、午後1時半の2回に分れ遊覽バスにて市中を見學、新興滿洲國都としての偉容を滿喫し、そのすばらしき躍進振りに目をみはり、友邦の力強き發展に今更の如く心強きを覺へた。尙午前中齋藤會長、長谷川副委員長は滿洲國政府、關東軍、滿業、滿炭其他關係各方面を挨拶の爲歴訪した。

甲班見學者49名午後10時5分發清津に向ふ。その見學日誌は

乙班の次に載せてある。

9月29日(晴)齋藤會長以下乙班40名午前8時10分發「ひかり」にて南下本溪湖へ向ふ。煤鐵公司より井門理事等わざわざ奉天まで出迎へらる。午後2時10分本溪湖着、公司事務所にて高橋常務理事の挨拶あり續いて井門理事より事業内容並將來の計畫に就き詳細なる説明を受ける。次いで本溪湖工場並に目下宮ノ原に鋭意建設中の新工場を見學したが、同公司は今や滿業の傘下に入り、古き歴史的存在としての煤鐵公司の殻を脱し、天恵の環境に立脚して新なる發足をなさんとしつゝあり、凡有る方面に清新潑刺たる氣分が横溢してゐるのが見受けられて心強い限りである。宮ノ原よりの歸途、齋藤會長の發意により順山子山々頂なる公司創立者大倉喜八郎翁の納髮堂に詣で、先覺の鴻業を偲ぶ。クラブにて小憩の後、千歳に於ける招待宴に臨む。當夜は本旅行中唯一の純日本式宴會で美妓の斡旋に一同打寛いて歡談、餘興に高橋常務理事の白頭節の披露などあつて愉快なる一夕を過すを得た。閉宴後も列車の發時刻まで非常に間があるので再びクラブで休憩深更まで御邪魔になつたのは實に恐縮至極であつた。

9月30日(晴)午前零時28分本溪湖發、列車中に一夜を明かし、未明朝鮮に入る。黃海黃州にて乗り換へ午前10時5分兼二浦着、直ちに製鐵所を訪れる。松本所長の説明を受けた後工場を一巡、銑鋼一貫作業を見學する。同所構内は清掃行きどき、道路等にも煙草の吹殻1本見られず、すべてが整頓せられてゐるのは、全く推賞すべく以て範とするに足るもの、此處まで従業員を訓練せられた同社幹部多年の御努力に對し一同敬意を表する。晝食を迎賓館に於て接待に與る。

之を以て12日間にわたる全日程を全く終了、一行を解散し各自自由行動を取りて南北に別れを告げた。

○甲班見學日誌

9月28日 見學甲班としての行動は新京發の列車より始まる。これより先き會員の或る者は新京見物をなし、或者は前日來哈爾濱等に隨意行動をなしたるがこれらの人々は定刻には續々と停車場に集まり午後10時5分多數の見送り人に分れを告げ一路清津に向て出發す。車中は中々混雜し一、二等寢臺は早くより豫約したる人以外はこれを得ること能はず中にはすばやく三等寢臺に這入りこみたる人もありたり。

9月29日 教化を過ぐる頃夜も明けて四方を展望し得る様になる、老頭溝には炭坑の施設を見る、この附近に滿洲國唯一の銅山ありなど云ふ話も出づ。天寶山も程遠からざるを知り其嚙にて車中漸く賑かなり。

この時分列車中に人員の點呼を行ひ始めて參加員を確認す。總數49名にして其姓名別表の通りなり。豫定よりは10數名減少せることを知る。豫て昭和製鋼所の久保田氏より清津の三菱製鐵所の廣瀨氏に旅館の世話を依頼しありし故この人員減少のことを同氏宛打電す。然し後に至りこの電報は遅延して我等一行の到着より少し前に廣瀨氏の手に入りたるため旅館の割當を變更する暇なく旅館にては皆豫定人員通り準備をなし相當の迷惑を蒙りたることを知りたり。

正午近くなりて時々驟雨あり前途の天候氣遣はる列車は少し後れて午後3時半清津に着く。この時も雨は相當に降りつゝあり、驛には廣瀨氏外數氏の出迎へを受け製鐵所の大型バス1臺に全員乗り込み製鐵所に向ふ途中道路工事中にしてバスの動搖中々激し、10分

餘にして同所に着き應接室に於て休憩す。

其間に廣瀨氏より製鐵所の概況を説明せらる。終て3組に分れて現場を見學す現在完成せるクルツプレシ法回轉爐2基の内1基運轉し1基は休止して修理中なり、他に近く完成する2基あり、前の1基は目下試験的作業中とも見られるれども利原の粉鑛を以て毎日相當量のルツペを出しつゝあり、東京及長崎方面にてこれを製鋼原料として試用しつゝありと聞く。班員は數日前奉天に於てヨハンゼン氏よりレン法回轉爐の話を開き今其現場を見て興味極めて深きものあり案内者に對し種々の質問を出し頗るこれを苦しめたるが如し。

日暮れ近く見學を終り前のバスにて夫々割當てられたる旅館に送られてこれに落付く、國際ホテル20人、雞林館15人、昌平館10人等なり。

9月30日 前日に引き換へ天氣快晴なれど風強く寒冷を感ず。午前8時3分清津發の列車にて茂山に向ふ。列車中點呼をなしたる處班員27名なり。不參の人の中には始めより他の方面に向ひたるものあれど中には前夜來旅館に頼み置きたる自動車が來らずして遅刻したる人もあり誠に氣の毒なり。

古茂山より茂山に至る60キロの輕便線は非常に山水の美に富み眼を慰むるものあり、此線に沿ふて新に布設せられつゝある本鐵道は大體路床完成し驛舎なども立派に出來上れるを見る、豫定は今年末開通の由なれどこれは少し無理の様に見受けたり。

列車が茂山鐵山驛に近づく頃より遠く山腹傾斜面に沿ふて建設中の選鑛場の大建築物を望見す。列車は零時40分茂山驛に着き三宅副長以下の出迎へを受けバスにて俱樂部に案内せらる。こゝにて直に丁寧なる晝食の饗應を受く。因に今日も人員減少の爲多量の無駄を生ぜしめたることは誠に恐縮の次第なり。

食後副長より茂山の沿革及採鑛方面の詳細に就て説明あり、又丸山氏より選鑛場の設備及其作業方法に就て詳しく説明あり一同茂山の認識を新にし其規模、計畫の大なるに驚く、それよりバスに分乘して約4キロ距れたる選鑛場建設中の現場に赴き更に詳細なる説明を開き、又鐵山の中腹約200メートル位の高さまで昇り採鑛準備の状況を見る我國鐵鑛資源の一大寶庫たる此山を見て感深きものあり。

又バスによりて俱樂部に歸り少憩の後6時10分茂山發列車にて歸途に就く、古茂山に8時半頃到着こゝにて見學班は解散し團們方面に向ふもの、京城に向ふもの又は清津に引返へすもの等各挨拶を交はして袂を分ちたり。以上(荒木宏)

甲班參加者

番 號	姓 名	清津參加	茂山參加
6	山口 眞 申	○	○
8	藤 井 寛	○	不
15	堀 田 重 治 郎	○	不
17	佐 野 半 兵 衛	○	○
18	井 上 順 三	○	○
23	松 田 太 郎	○	○
26	山 之 内 赴	○	不
31	青 木 元 直	○	不
32	森 三 郎	○	不
35	錦 織 清 治	○	○
51	多 賀 谷 正 義	○	不
52	絹 川 武 良 司	○	不
54	小 島 由 之 作	○	不
59	小 森 富 作	○	不
60	中 島 審 一	○	○
63	角 尾 敏 彦	○	不

64	山本東作	○	不
68	石井健一郎	○	○
71	吉田正三	○	不
75	富士原八郎	○	○
76	居初辰	○	不
78	園田一夫	○	○
87	内川悟宏	○	○
90	荒木肇	○	○
91	吉城三郎	○	不
92	吉田清三	○	○
95	麻生友治	○	○
96	荒木逸夫	○	○
99	北島三男	○	不
102	本野建二	○	○
103	上野順一	○	不
104	近藤島	○	不
105	小西豊	○	不
106	矢島忠和	○	不
114	矢島弘一	○	○
117	矢松十郎	○	不
124	松下之助	○	○
128	松永陽之助	○	○
223	田原川熊彦	○	○
241	長谷川文太郎	○	○
250	高橋文春	○	○
262	米井源次	○	○
268	田名部幸吉	○	○
274	田鈴木茂	○	不
277	吉田丸莞	○	○
279	山本眞一	○	不
283	田丸井	○	○
297	福佐々木	○	不
302	佐々木専一	○	不
合計		49	27

れませんので、御指名によりまして私より御挨拶申し上げます。

満洲に於て本大會を開催したいと云ふ御話は本年5月頃より承て居りましたが、8月に入て愈確定し、爾來實行委員長をはじめ各地の役員諸氏の御盡力により本日此處に大會を開くに至たのであります。この間特に昭和製鋼所に於かれては幹部以下大會準備の中心となり東京本部或は各地との連絡にあたられ、非常に御世話になりましたことは、竝に厚く御禮を申述べたいと思ひます。然し乍ら何分遠隔の地の事として連絡上不充分の點があり、また諸準備にも行き届かぬ點が多々あり、參加會員諸氏にも多くの御不満があることと思ひますが、其の點は不惡御許を願ひ度く、役員の一として特に御詫びを致します。

扱満洲に於てこの大會を催しましたのは去る昭和9年でありまして、當時は満洲事變の直後、一般情勢も現在とは全然異なり、大會參加者もまた内地満洲合して約70名に過ぎなかつたのであります。然るに今回に於ては御手許に差上げたる名簿にも記載せられて居ります通り内地側131、満洲側125の申込みがあり、其大部分の御參加を得、前回に比し約4倍の多數となつて居ります。今や我々鐵鋼事業関係者の最も奮起すべき秋に當りかゝる多數の人が一堂に會し素研鑽の内容を發表、相互研究に資することは邦家の爲にも慶祝すべきであり、今後共この種の催が益盛大ならんことを切望する次第であります。

只今より直ちに講演に移り、第一回は當講堂で、第二回以後は本館の方に設けてある二つの教室に分れて行ひ度く、各講演者が夫々専門の題目に就き、蘊蓄を傾けられるのでありますから、會員諸氏にも得る處が多いと思ひます。その意味に於きまして最後まで御靜聽あらんことを希望致します。

之を以て開會の辭と致します。

II. 聯合講演會

(昭和14年9月24日)

講演大會開會の辭

實行副委員長 長谷川熊彦

實行委員長たる鮎川滿業總裁が已むを得ざる事情の爲御出席にな

日本鐵鋼協會聯合講演會  
滿洲冶金學會

9月24日(日) 午前9時開會 會場 奉天市滿洲醫科大學

開會之辭 (於大講堂) 長谷川熊彦氏

講演 午前之部

時間	大講堂	司會者
9.10~9.35	(1) 自然産鐵礦石及び加工鐵礦石の一酸化炭素に依る還元度比較試験 井門文三氏 香月秀男氏	長谷川熊彦氏

10分休憩 (講演會場を二部に分つ)

時間	第一會場		第二會場	
	講演	司會者	講演	司會者
9.45~10.10	(2) 熱河産チタン鐵礦の製鐵研究 垣内富士雄氏	長谷川熊彦氏	(15) 高クロム鑄鐵の實用的研究 内藤逸策氏	藤井寛氏
10.15~10.40	(3) 鞍山鐵礦の性質に就て 後藤有一氏	〃	(16) ロール合成樹脂軸受に就て 内川悟氏	〃
10.45~11.10	(4) 粉鐵燒結に關する實驗並に實地的研究 村上敦雄氏	〃	(17) ロールの孔形が壓延能率に及ぼす影響並に其の時間的研究 園田一夫氏	〃

## 10 分 休 憩

11.20~11.45	(5) 鹽基性平爐の作業能率に及ぼす各種因子の影響 堀内 深志氏	荒木 宏氏	(18) 鋳力板の材質的缺陷に就て (幻燈用) 吉田清三郎氏	大日方一司氏
11.50~ 0.15	(6) 硫酸滓利用に関する研究 森棟 隆弘氏	"	(19) 亜鉛鍍金薄銅板の製造法及び品質 佐藤慶二郎氏	"

## 晝 食

## 講 演 午 後 之 部

1.15~1.40	(7) 弧光爐の電極に就て 林 達夫氏	高 莊 吉氏	(20) 高抗張力鋼鉄の製鉄及び鋳鉄時に於ける加熱温度、加熱時間及び鋳鉄時間に就て 美馬源次郎氏	高橋文太郎氏
1.45~2.10	(8) 鑄鋼用鑄物砂配合に對する基礎理論 (第4報) 吉田 正夫氏	"	(21) 鋼の反滓色の數值的表示に就て (反射幻燈用) 吉城 肇蔚氏	"

## 10 分 休 憩

2.20~2.45	(9) 鐵鋼中の含有ガスに関する研究 (第6報) (熔融せる鐵の水素吸収) 矢島 忠知氏	絹川武良司氏	(22) 特殊鋼の低温度焼戻脆性に就て 萩原 巖氏	渡邊猪之助氏
2.50~3.15	(10) 鐵鋼中のアルミナ分離定量に就て 荒木 逸夫氏	"	(23) 滲炭平衡及び CO 氣流中に於ける滲炭反應 眞 殿 統氏	"

## 10 分 休 憩

3.25~3.50	(11) 強韌耐蝕性アルミニウム青銅の研究 (第2報) (幻燈用) 小磯 五郎氏 矢田 益夫氏	井門 文三氏	(24) 高級高速度鋼の新しい見方 菊池 麟平氏	日下 和治氏
3.55~4.20	(12) シルジウム青銅の焼鈍脆性に及ぼす Al, Ni, Fe, Mn, Sn, の影響 伊澤猛三郎氏	"	(25) 盛金バイトに就て 小出 秋彦氏	"

## 10 分 休 憩

4.30~4.55	(13) 濕式ガス洗滌機とガス壓力調節機 (映寫用) 福井 眞氏 佐々木專一氏	齋藤 大吉氏	(26) 特殊鋼型打製品の肉眼組織に就て (反射幻燈用) 錦織 清治氏	久保田省三氏
5.00~5.25	(14) 鋼管に於ける孔蝕の機構に就て 多賀谷正義氏	"	(27) 石炭液化用並びに其他の高温高壓化學工業用合金鋼に就て (幻燈用) 絹川武良司氏	"

## 開 會 之 辭 齋 藤 大 吉 氏

講 演 終 了

## 通 俗 講 演 會

日 時 9 月 25 日 (月) 午後 5 時 30 分

## 開 會 之 辭

1. 滿洲に於ける製鐵事業の特徴
2. 獨逸クルツプ會社レン式製鐵法の現状に就て

## 閉 會 之 辭

## 閉 會 の 辭

講 演 大 會 日 本 鐵 鋼 協 會 々 長

工 學 博 士 齋 藤 大 吉

之を以て此度の日本鐵鋼協會滿洲冶金學會聯合の講演大會を終了致します。今朝來講演者各位に於かせられては多年御研鑽になりました業績を圖表或は幻燈等によつて熱心に御發表下さいまして聽講者に多大の感銘と利益とを與へられましたことに對し私は兩學會を代表して茲に甚深なる謝意を表したいと思ひます。

何分 27 と云ふ多數の講演を 1 日で終了致しますが爲に井門氏の御講演を除くの外之を 2 部に分て行ふの止むなきに至りましたことは私共の甚だ遺憾とするところであります。從て聽講者諸君にも幾多の不便を感じられたこと、信じますが其足らざる所は不日會誌上に發表さるゝ論文によつて補はれんことを希望致します。又一講演に割當てた時間も同一の理由により甚だ短かりし爲講演者各位も充分其意を悉し得ざりし憾のあつたことと存じますが之も亦又會誌上に於て心置なく其蘊蓄を傾けられんことを御願致します。

次に私は此度の講演の種別について一言したいと思ひます。元來私共の學會では鐵鋼（非鐵金屬をも含む）に關する學術及技術の進歩發達を促進することを主なる目的と致しする關係上此等に關するアカデミックな研究の發表を歓迎することは勿論であります但同时に實際作業の改良進歩に關する研究業績の發表を望むこと殊に切なるものがあります。この意味に於て此度の講演の種別は實に我が意を得たものであると信じます。今之を大別して見ますと原料（鐵礦）に關するもの5；特種鋼に關するもの及壓延に關するもの各4；熱處理に關するもの3；分析、鑄物、非鐵金屬に關するもの各2；熔鑄爐、平爐、電氣爐、防蝕及銜銑接に關するもの各1と云ふ鹽梅に各方面の問題を網羅し殊に實地作業に關する適切なる題目の多かつたことは時局柄寔に結構なることと存じます。尙ほ皆様には今後一層の研究を積まれまして日滿冶金學界の爲に啓發の勞を執られんことを切望致します。

又聽講者諸君には斯く多數長時間に亙り至て熱心に且つ靜肅に御聽講下さいましたことに對し厚く御禮を申し上げます。最後に此講演大會を開くに當りまして會場の準備、圖表の整理等萬般のことに亙り一方ならざる御盡力を戴きました滿鐵の渡邊工作局長及其他の各位に對し私は兩學會を代表して深厚なる謝意を表したいと思ひます。

### III. 懇親晚餐會

(昭和14年9月24日於奉天鹿鳴春)

#### 卓上演説

##### ○齋藤會長

閣下並に諸君 今回滿洲冶金學會及日本鐵鋼協會が聯合して御當地に講演大會を開催致し且つ全參加會員が大連に集合以來各地の工場、研究施設等を見學させて戴きますに就きましては今夕御賓臨の榮を得ました各官衙及有力なる各會社等の幹部各位の甚大なる御後援並に鮎川實行委員長を始め小日山、山本、長谷川、大崎氏等の各副委員長及大連、鞍山、本溪湖、奉天、撫順及新京等に於ける多數の實行委員諸君の去6月以降今日に至るまで長期に亙り一方ならざる御盡力によりまして去19日以来大連及鞍山等に於て洵に有益なる見學を致し本日の講演大會の終了を以て今次大會日程の大半を無滞済し得ましたことは私共の洵に欣快とするところでありますと同時に實に感謝に堪へざるところであります。此點に關し私は茲に兩學會を代表して來賓各位に厚く御禮を申し上げます。尙滿業總裁鮎川氏及昭和製鋼所理事長小日山氏より多大なる財政的援助を戴きましたことについては甚深なる謝意を表します。

又同じく御招待申上げました講演者諸君には各種の問題について多年御研究になりました極めて有益なる業績を本大會に御發表下さいまして聽講者に多大の感銘と利益とを與へられ尙ほ今後之を會誌上に掲載して此會に参加し得ざりし一般會員に良參考資料を提供されることに對し甚深なる謝意を表し同時に之を發表せしめられた各會社の厚意に對し深厚なる敬意を呈します。

尙私は今より滿5ヶ年前即ち昭和9年10月大連市に大會を開きました當時と今回との模様を數字的に比較して見たいと思ひます。前大會當時日本鐵鋼協會の會員數は1,674人でありましたが去8月末の會員現數は3,358人でありまして丁度以前の2倍強になつて居ります。又在滿會員數は當時僅に80人でありましたが現今では220人即ち2.7倍に激増致して居ります。之れ即ち日滿兩國の

製鐵業乃至重工業の發展の模様を示すバロメーターであると信じて誠に喜ばしく感ずる次第であります。更に前大會へ内地からの參加者は僅に50人でありましたが今回は125人即ち2.5倍に増して居ります。之れ内地の重工業に従事する者が近時滿洲に對し如何に大なる關心を有するに至るかを示す證左であると信じます。次に前大會の講演者數は15名(内滿洲側3名)でありましたが今回は27名(内滿洲側7名)の多きに上り1.8倍になつて居ります。斯くの如く本聯合講演大會が實に豫想外の成功裡に終始し得ましたことは全く來賓各位の甚大なる御後援、御高配に由るものと存じまして茲に重ねて謝意を表します。

以下今日までに私共の拜見致しました所について簡単に私の感想を述べさせて戴きたいと思ひます。先づ私共は先日大連市の研究所及工場等を拜見致しまして滿洲の特種資源を利用する工業例へば最近には高礮土頁岩からのアルミニウムの製造、撫順炭の直接液化法乃至弓張嶺の純良なる富鐵礦からの純鐵の製造等の搖籃の地が多く滿鐵の中央試験所或は鐵道技術研究所等にあつたことを知りまして實に愉快に感じた次第であります。又滿鐵の沙河工口工場等に於て所謂精銳なる滿鐵刀の大量的鍛鍊或は錫、ニッケル、銅等不足資源を補ふが爲に代用合金の調査研究等が盛に行はれつゝある有様を拜見して洵に心強く感じた次第であります。

次に鞍山に參りましては其第4期擴張の大半を終り更に第5期、第6期の擴張計畫を續行して銑鐵330萬噸、鋼塊280萬噸の生産能力を有する東洋第一、否世界にも稀なる一大製鐵所が數年後に出現すべきことに思ひ至りまして實に快心に堪へなかつたのであります。又昨年來鞍山の鐵礦供給について兎角の噂がありまして心配致して居りましたが同所の精細なる調査及去7月行はれました滿洲資源の日滿協同調査會によつて裏書された鞍山及弓張嶺の貧鐵礦、27億噸、富鐵、2,600萬噸の存在が確認され目下同所に數10萬噸の貯鐵があることをも承りまして大に安心致した次第であります。今日同所はコークス用石炭の惡質化及供給不足等によつて大變御困りの様に承つて居りますが之は滿洲各地に賦存する莫大なる粘結性石炭の増産或は北支炭の輸入等によつて早晚解決するゝことと信じますが私は其日の1日も早く來らんことを祈るものであります。

又同所の施設については内地の我々が大に學ぶべきは伍堂前社長が巨資を投じて設備し小日山理事長によつて熱心に充實されつゝある熔鑄爐及コークス爐ガスの熱管理であります。私共は此兩3年來我學會の熱經濟に關する研究部會に報告された極めて良好なる成績を拜聽して大に教へらるゝ所が多いのであります。

其他同所ではクルツ・レン・法爐の建設中であり、熔鑄爐の酸性操業法も兩3年來研究中であり、將來はコークス爐ガス中の水素及副産物を利用して液體燃料、肥料、染料等にまで進出せんと調査研究を進めて居らるゝことはさすがに新進氣鋭の小日山理事長の炯眼に敬服するものであります。加之久保田常務始め同所の最高幹部が克く一致和合所謂總親和總協力の實を擧げて理事長を援けて居らるゝことは私の特に頼もしく感じたところであります。願くば滿洲國が生産力擴充、資材の供給等に於て昭和製鋼所に要求すること甚だ大であり同時に日本が銑鐵及半製品の供給に關し同所に期待するところ實に大なるものあるを御諒解下さいまして一層の努力を拂はれんことを切望致します。

更は昨日は弓張嶺の鑛業所を見學致しましたが5ヶ年前其操業の初めに於ては僅に楊木山の富鐵露頭部を採掘せしに過ぎず其産額も日産僅に2-3百噸に過ぎざりしものが其後深部富鐵體の徹底的採



鑛の結果 60% 以上の富鑛 2,400 萬噸、貧鑛約 7 億噸の存在が確認され目下 13,000 人の勞働者を使用して年産 100 萬噸を採掘し得るに至ったことは實に斯界の驚異であります、其他十數の邦人社宅、數百の滿人社宅等が實に立派に出來上つて居りますことは眞に隔世の感を與へたのであります、又同所では兩 3 年後には 1 ケ年百數十萬噸の貧鑛を整理する一大選鑛所が建設されることに決定して居りますので今後の發展は刮目に値するものと信じます。

又私共は明日此兩 3 年來異常なる發展を遂げられて居る當地鐵西地區等に於ける數工場、撫順炭坑及び本溪湖製鐵所等を拜見することになつて居りますのが夫等に關する感想を述べますことは又後日の機會に譲りたいと思ひます。

最後に本日は從來の御高配に聊か謝意を表すが爲此粗宴を設けて御招待を申上げましたところ御多端の折柄にも拘らず曲げて御高臨を忝ふしましたことは私共の非常に光榮とするところであります厚く御禮を申し上げます。學會のことでありますので設備萬端極めて不行届でありますことを深謝致します、又御席次等も不慣の爲定めて失禮の點も多からうと存じますが之も亦御寛容を御願致して置きます。(拍手)

○齋藤會長 例に依りまして四五人の方に 5 分間位ブームテーブルスピーチをお願い致しますと思ひます。つきましてはどうか私に指名権をお與へ下さいます様に、一つ皆さんの御賛同を戴きたいと思ひます。先づ第一に九州帝大の高博士に御願ひしたいと思ひます。高博士は大學卒業後直ちに八幡製鐵所の技師になられ九大退官後もなほ顧問となられまして今日に至るまで鐵鑛、石炭、其の他耐火材料等凡有る製鐵に關する原料の調査研究を 40 年の長きに亘て續けて居られます所の本邦鐵鋼原料界の最高權威者であります。どうか御感想なりその他をお願いいたしたいと思ひます。(拍手)

○高博士 私は唯今御紹介に預りました高であります、私は明治 30 年大學卒業後直ちに八幡製鐵所に奉職し主として製鐵原料の調査研究に従事しまして内地の各地方は勿論朝鮮、滿洲、支那、南洋等に互て廣く製鐵資源の調査に當りました、其後九州大學の教授に轉任後も矢張り八幡製鐵所の技師を兼任して其方面も努力を續けました。(中略)

其の後中村雄二郎男が滿鐵總裁になられまして鞍山製鐵所、今の昭和製鐵所を御計劃になりましたんですが、當時工藤博士その他の方々の探險に依りまして、大石橋方面にマグネサイトが澤山ある事が発見されました、其の直後私も大石橋に来て見まして、私は此前地利のマグネサイトの山を見たりありますが、大石橋のはそれ所でない實に量は豊富であり、質はよし、世界にも珍らしいものだと思ふ事が判りました。日本が滿洲の權益を得るやうになりました當座の頃は、滿洲には撫順の炭坑があるだけであつたのは農産物の大豆、高粱位のもので鑛産物なんかもどれも大したものがないと云ふので、國政を論ずる論客なんかに大分悲觀されたものであります。それが漸く時日を経るに従つてそう云ふ貴重なものが地下にある事が発見されたのであります、これが露領時代に発見されずに済んだ事は非常に有難い事だと思ふのであります。私が見に参りました頃は、マグネサイトと氣がつかず石灰石だと云ふ事で大石橋附近には建築に用ひる大きな石材がないので石材として採掘して居たのであります、「是れは石材等にするには勿體ない、非常に貴重なものだから研究しなくちやあならん」と云ふので、分析研究の結果良質のマグネサイトであると云ふ事が愈よハツキリして來たのであります、當時はそれを判然とマグネサイトであると發表する事が出

來なかつた、若しそんな事が判たら張作霖政權の頃の事でありまして、あの山をトントもない高い値段で買はなくちやあならない事になると云ふので、建築材と云ふやうな事で採掘して居たのであります。今でこそ發破をかけてどんな形にでもして掘れますが、長い間それが出來なかつた。内地へも相當送つて居たのであります、わざわざ四角とか長方形に切りまして、石材と云ふ事で採掘して居たのであります。今ではもう滿洲はおろか世界的貴重な鑛物資源の一つになつて居りまして、日本は鑛物資源に乏しいと云ふやうな考へ方をして居られる方にとつては驚くべき存在となつたのであります。

私はよくチヨイチヨイ滿洲にはやつて來ますが、其の度に何かよい報導を必ず持て歸つて居ります。昔は石炭と云へば撫順炭しかなくつたのであります、此の頃では北滿の方にも鑛量の豊富な石炭山がある事が判りました。

それから鞍山の貧鑛なんかも非常な御苦心の結果其の處理法に成功せられて昭和製鐵所の基礎が確立したのであります、それが日本人の手に依つてなされたと思ふ事は實に感謝す可き事であり、露領時代なんかには、貧鑛を鐵道線路にバラスに毀して使つて居た位で製鐵などと云ふ事は彼等には思ひも及ばなかつた事らしいのであります。そう云ふ鑛物資源なんかに關心を持つ人がなかつたのかどうか知りませんが、日本にとつては洵に有難い幸ひであつたのであります。

現在日本では此の滿洲に對して經濟的に色々調査を進めて居る譯であります、調査の進むにつれて次々貴重な資源が発見されつゝある次第であります。此の頃では東邊道にも富鐵鑛が埋藏されて居ると云ふ事であり、又先程齋藤鐵鋼協會長がお話になられたやうに、弓張嶺なんかも良質の鐵鑛が多量に抱藏して居ると云ふ事でありましたが、昔は只内地の利權屋さんが鑛區を持って居ると云ふ程度に過ぎなかつたもので、そんないいものがあらうとは思つて居らなかつたのであります。

本溪湖も大倉家の開發に依りまして現在の如き良成績を擧げて居りますが、今後開發が進むにつれて或は弓張嶺のやうに意外な富鐵鑛が発見されないとも限らず、又貧鑛の如きは非常に埋藏量だと云ふやうな期待がかけられて居る次第で、是れは充分な處理法を設備せられて、還元しましたら現在以上の基礎の固い製鐵所になる事は言を俟たないのであります。

其の外煙臺、復州邊りでは礫土の非常に高い粘土層があるさうであります、是れ等も最近まで、全然判つて居なかつたもので「滿鐵は撫順の石炭と鐵道の輸送力しかない。其の他の事業はみな豫算を喰ふばかりじやないか」と云ふ荒つぽい議論をなして滿洲を蔑視して居た論客が多かつたのであります。今後の調査に依りまして、私はまだまだ驚く可き地下資源が発見されるんじやないかと考へて居る者であります。高礫土頁岩からアルミニウムが製造されて居る事等を考へますと私の想像も強ち夢とは云ひ難いのであります。

私が 4 年前に参りました際撫順に行きましたが撫順でもオイルセールから採油の一事業が開始されて居りまして、日本で最も必要を感じて居る液體燃料、輕油、重油なんかが製造されて居るのを見まして大變愉快に感じました。其の前に歐羅巴に参りました時に英國のスコットランドでオイルセールの特にいいものがありましたので、私は穴の中に入りまして見て來ましたが、日本にもこんなのがあつてもいいのぢやないかと思つて歸つて來ましたら、撫順でも既にそれをやつて居られましたから私は非常に愉快に感じました。今回

参りましたらあの當時以上盛大に操業されて居る事と思ひます。私は其の操業を見る事は出来ないのですが、大きな發展を示して居られるであらう事は疑ひない所であります。

又鞍山の昭和製鋼所に参りまして、新しい建設が次々と完成されつゝありまして、果しない工場区域に連る工場、熔鑄爐が間断なく操業されつゝある様を見まして實に力強く感じた次第であります。

貴重な地下資源は益々開發される事疑ひなく、全滿の工業が目を逐ふて大發展を續けるであらう事も疑ひない。私としましては實に助けて愉快で堪らんのであります。今晚此の席で齋藤會長から御指名を戴きまして、私は大變光榮に感じ、大變有難く思ひまして概略だけではありますが、テーブル・スピーチとして感想の一端を述べた次第であります。(拍手)

**○齋藤博士** 只今は高博士から大石橋のマグネサイトの最初の御調査の頃からのお話が御座いまして大變興味深く拜聴致しました次第であります。

尙高博士の御意見に依りますと、是れまでの滿洲の鑛物資源開發の狀態から推しまして、今後尙其の開發には大きな期待がかけられると云ふ事でありまして、付きましては滿洲に居られます皆さん方に對しまして其の方面に充分の御調査、御研究あらむ事を切望する次第であります。

次に滿洲側として滿洲冶金學會會長で旅順大學の教授であらせられる長谷川博士に御感想をお願いする事と致します。(拍手)

**○長谷川博士** 齋藤會長から御指名を戴きましたが、私としては別に申上げる事も御座いませんが、此の度も鐵鋼協會の大會に冶金學會の名前を連ねられて戴きました事に就て厚く御禮を申し上げたいと思ひます。

御承知のやうに日本鐵鋼協會は古い歴史を持って居るのでありますし、先程のお話のやうに多數の會員を擁し、日本の最高權威の方々に依て組織せられて居る會であります。所が滿洲冶金學會と申せば我々少數のものが寄々會合をして見たり或ひは講演をやつて見たりと云ふ風な事で過して居るもので學會等と名前はついて居りますが先づ學會の豫備入門とでも云つたやうな形に過ぎない譯で鐵鋼協會が親會社とすれば我々の方は子會社とでも云ふ可き所で、先づ分身に等しい狀態を續けて居るので御座いますから、若し鐵鋼協會の方々がこちらに御出でになる機會が御座いましたならば、どうかして名前だけでも連らねて戴きたいと存じまして居りました所今回も一緒にやらんかと云ふお話を承りまして洵に欣んで名前を連ねて戴きまして應分の世話をさせて戴きました譯であります。實は會員のうちの先輩長老の中には鐵鋼協會の會員である方々も居られますのでその方々に色々お願いしたやうな譯で會としては何も特別の事を致して居ないのであります。若し幾分でもお爲になるやうな事が御座いましたらそれは鐵鋼協會の分身が働いて居るのだと云ふ風にお思ひになつて戴けば結構と存じます。何卒今後ともそう云ふ趣意で働かせて戴けますれば此の上もない事と存じまして及ばぬ事ながら滿洲の鐵鋼、冶金、そう云ふ方面の事は御指圖に従ひまして微力を捧げたいと思つて居ります。

それから私自身は旅順、大連の方面を主に受持たせて戴きましたし中央に關する事は昭和製鋼所の方から大變御盡力御便宜を頂戴致しました次第で、今後共御盡力をお願い出来る事になつて居りますので此の點は非常に安心して居ります。尙私共は東京、中央、其の外昭和製鋼等が御座いましていつも大船に乗る氣持で安心して凡

てをやつて居る譯でありますから何卒會長さんを始め幹部の方々もそう云ふ御趣意で御指導を御願ひ致したいと思ひます、一寸御挨拶を兼ねて鐵鋼協會に御禮を申上げて此の話を終りたいと思ひます。(拍手)

**○齋藤博士** 只今は長谷川滿洲冶金學會會長から、極めて御謙遜なる御挨拶を戴きまして鐵鋼協會と致しましては洵に恐縮に存ずる次第であります。大會開催に就きましては非常な御盡力を忝うしたのであります。此の分で行きますと奉天に於ける大會も盛會裡に終了するものと察せられる譯で實に有難く感謝して居る次第であります。

先刻も申しましたやうに、前回に於きましては滿洲側の講演は内地の 12 に對して 3 でありましたが、今回は内地の 12 に對して 7 と云ふ數を示して居りまして、其の増加率は内地に比して遙かに勝つて居る譯であります。此の點に就きましては内地側は大變敗けた事になつて居ります。次の大會迄には内地側もウンと頑張つて澤山の講演者を出したいと思つて居りますから、滿洲側に於かれても充分御努力あらむ事を切望致します。

次に日本側の住友金屬工業の取締役であらせられ、而して當地に於ける滿洲住友金屬工業の創立及現在の經營に大變御盡力になつて居られ、尙此の程日本鐵鋼協會の始めての支部として京、阪、神を繼ぐ關西支部が大坂に設立されましたが、その設立に際しては非常に御活躍になり、現在其の支部長として敏腕を揮はれて居ります所の荒木宏氏にお話をお願いしたいと思ひます。(拍手)

**○荒木宏博士** 私、御指名に預りましたけれども、一向どうも話題の持合せが御座いませぬので洵に當惑いたして居りますが、……それでは僅かな時間を御清聴願ひ致しませうか。此の度鐵鋼協會の大會が滿洲で開かれましたに付きまして私に此の大會に出席すると云ふ其の用事だけの爲にこちらに出て参りました。此の熱心だけは一つ買つて戴きたいと思ふのであります。私は從來年に二度か三度位は仕事の方の關係でこちらにお邪魔してゐるものですから、今度鐵鋼協會と滿洲冶金學會の大會出席だけの目的で出て参りましたに拘らず「仕事の事で又やつて来たんだな」と軽くあしらはれる事は實は少々不満を感じる譯なんです。

それはまあどうでも宜しいと致しまして。私は此の滿洲國に 10 數年前から御邪魔を致して居りますが、その最初の頃と現在とを比較して見ますと實に驚く可き變化であります。隔世の感とは此の事を云ふのだと思つて居るのであります。

例へば昭和製鋼所ですが、私は元の鞍山製鐵所時代にも拜見して居りますが、其の時の記憶に依りますと當時バラック建の！甚だ失禮ですが！貧弱な事務所に皆さんが御出でになりました。それから熔鑄爐も二本かそこらシヨンボリと立て居りました。向ふの丘の上には選鑛工場が黒い屋根を淋しげに連らねて居つた次第であります。それがどうでせう。一昨日昭和製鋼所へ参りまして盛んな操業狀態を拜見し、將來の御計畫を承て其の雄大な事に驚嘆するばかりでありました。

尙先程の御話にもありました通り、以前は滿洲に於ける資源と云ふものは割合ひに知られて居らなかつたやうであります。近來滿洲國になりましてから頗る資源の調査が進みまして、石炭等は年に數十億噸づゝ殖えて行き、鐵鑛も何億噸づゝ殖えて行くと云ふ驚く可き状態にあるのであります。是れ等の資源を開發して滿洲國並に我が國の産業界に供給しやうと云ふのが昭和製鋼所、本溪湖その他の御使命であります。そう致しますと皆さんの御責任と云ふも



のは非常に重い事になるのであります。

從來の我が國は一我が勢力の及ぶ範圍—持たざる國と云ふのが一般的通念となつて居つたのでありまして、其の爲に開發の方も自然遅れて居たのであります。そう云ふ時代もあつたのであります。が、近來はそれが一變しまして少くとも鐵鋼或ひは重工業の資源に於ては持てる國、持てる國でいなければ持ち得る國と云ふやうな状態になつて居ります。此の持たざる國から持ち得る國、持てる國と次第々々に引揚げてやつて行く、是れが我々工業人の責任であると思ふのであります。殊に滿洲に於ける皆さんが第一線に立たれて御努力下さつて居ります所を拜見し又色々承りまして非常に心強く感じました次第であります。大體私の申し上げたい事は會長なり高博士なりからお話があつたと全く同様でありますのでまあ此の位に致したいと思ひます。私の申しました事はまるで花も實もないスクラップ並のお話でありまして洵に恐縮で御座います。(拍手)

○齋藤博士 洵に御尤も同感で御座います。次に滿洲側の渡邊工作局長に奉天側を代表して此の大會に就ての御感想を承りたいと思ひます。(拍手)

○渡邊工作局長 御指名に預りました渡邊猪之助であります。奉天では鐵西方面に可成り工業の發展を見て居りますが、是れは資材を造ると云ふよりは寧ろ使ふ方が多いのであります。私も使ふ方面の一人でありまして、今日の如く昭和製鋼所、或ひは本溪湖、其の他資材を造る所が潭山滿洲に出來ました事は、我々に取りましては非常に有難い仕合せだと思つて居ります。

よく滿洲の人が申して居りますが、滿洲の鑛物資源は匪賊の爲に調査を妨げられて開發出來なかつた、つまり資源が匪賊に保護されて居たのだと云ふ事をよく云ふのであります。

尙私は滿洲事變以後内地の權威者が見えられましての話に、先程高博士が申されましたやうに滿洲は高粱なり大豆なりがあるのみで、撫順の外は大した鑛物資源はないと云ふやうな説は、滿洲國の基礎が今日の如く出來上るまでは、諸外國から日本の權益を擁護する爲の一つの方辨であつた、と云ふやうな事をおきした事があります。

今のやうな悲觀説や匪賊が滿洲の資源を保護して呉れたと云ふ事は滿洲に居る私共としては非常に愉快に感じていい事だと思つて居ります。

尙滿洲に居る者が眞實に誇りとする事は昭和製鋼所に参りますと、構内に入る直ぐ左の方の山の上に梅根博士が苦心されました貧鑛處理の選鑛工場が巍然として操業を續けてゐる事でありまして、是れは滿洲の日本人が發明し、日本人の手に依て、日本の資材を以て作られたものだ云ふ事を考へますと非常に愉快に感ずる次第であります。

今後滿洲に於きましても相當立派な工業用の機械なり、其の他が發明される事と存じますが、斯様な場合は發明者個人の名譽ばかりでなく、工業界の發展に資する所大なるを考へられまして、その發明が完成されますやうに各方面から充分な御援助を與へて戴きたいと云ふ事を、今日御出席の日本内地の方々及滿洲の方々に切に御願ひ致す次第であります。

又私は此の鐵鋼協會に臨みます度毎に申上げるのであります。が、使用者の一人として資源を開發される方々に御願ひしたい事は、成る可く使用者に最も便利なやうに資材を造て戴きたいと云ふ事又、資材が如何なる方面に利用したら最もいいかと云ふやうな性質特徴等を御考慮に入れて戴きたいと云ふ事を切望して止まない次第であ

ります。

是れを以て御挨拶と致します。(拍手)

○齋藤博士 只今は渡邊工作局長から鐵材の使用人としての側からの御意見、御感想を御きゝ致しましたが大いに啓發される所があつたと思ひます。

尙最後に御願ひ致しますのは、此の度の大會開催に當りまして凡ての事に御便宜御斡旋を戴きました昭和製鋼所の小日山理事長に御願ひ致したいと思ひます。昭和製鋼所に於かれましては先般一同が參上致しました際は非常なる御歡待を忝し且見學上多大の便宜を與へられたのであります。が又、先程も申し上げましたやうに多大の人的及財政的御援助を下さいましたので講演會其他大變都合よく大會が進捗して居るやうな次第で、私共一同感謝に堪へない所であります。同所の小日山理事長は常に技術の最前線に立たれて、其の幕下に居られる技術者を鼓舞激勵されて居られる方であります。何か御感想なり其の他のお話をお願いしたいと思ひます。(拍手)

○小日山理事長 皆様方昭和に御出でを戴きました頃は、恰度私餘儀ない事情で滿洲國政府の方に呼出されて居りまして、留守を致しました爲に、何等御歡迎も出來ませんでして甚だ失禮致しました。今日は恰度私に御招待が御座いましたので是非御馳走を戴かうと思ひまして急いで新京の用を片付けて先程 5 時 9 分のアジアで駆け付けた譯で御座います。

左様な次第で御座いますから昭和に對して御禮の御言葉では却つて恐縮の至りに存じます。此の席を藉りまして謹んで御詫びを申上げる次第であります。

感想と申しましても先程來段々の御話に依りまして、滿洲の資源に對する内地側の方々の御期待、或ひは我が社昭和に對する御期待等を承はつたのであります。是は皆様方の御話の通りで御座います。

滿洲の資源の關係から申しますならば、銑鐵で 1,000 萬噸位の年産は決して難事でないと思ひます。我が社の例を取て見ましても具體化して居る計劃等は先程から大體の御話も御座いましたが、350 萬噸内外であります。是を氣張てやりますれば 450 萬噸、500 萬噸は充分出來るだらうと思ふのであります。今日獨逸邊りの會社のキャパシテイを見ましてもイリノイスのゲーリーが銑鐵で 350 萬噸、矢張りイリノイスのサウス・シカゴが 310 萬噸か 20 萬噸、獨逸最大の工場であるヘルマン・ゲーリングが 400 萬噸の計劃であります。併し實際に於て 300 萬噸以上の銑鐵を造る所はありません。只計劃のみと致しましても 400 萬噸以上を突破する計劃をなし得る所は少いのであります。が、滿洲の資源から見ますれば、我が昭和の如きは一番環境に恵まれて居りますから、世界的な計劃を樹立し得る立場に置かれて居るのであります。ことほど左様に滿洲の鐵鋼資源は豊富なんでありまして、併し此の私の理想と云ふやうなものも或ひは可成り遠い將來であるかも知れません。

是れを實現するには色々な條件を必要とします。そのうち一番大切な時間の問題、此の時間を短くする事が出来るか出来ないかは實は内地側の皆様方の御援助の程度如何にかゝるのであります。我々の會社に於きましては、先づ機材の關係、技術上の後援、或ひは資金の利用等々凡てを母國に依存してゐる状態でありまして、母國の後援者の熱の程度如何に依て大きな資源の開發が早急に實現されるかされないかが分岐されるのであります。

鐵鋼の状態から考へて見ましても、御承知の通り内地の銑鐵の輸入數量、鋼材の輸入數量、スクラップの輸入數量、或ひは鑛石の輸